#### ~ココロをつなぐ。 まちが育つ~

く北区ボランティア情報誌>

# 73-77

#### 平成24年度版

3月発行

## 大将軍

#### 相談

#### 「チラシをツールに見守り相談」

学区の65歳以上の独居高齢者及び高齢者のみ世帯を対象とし、訪問販売や熱中症等の日常生活において注意するべき事柄を記載した手づくりの「おせっかい通信」。

大将軍では、このチラシを手渡しし、様々な相談に応じるという見守り相談活動を実践されています。

この取り組みは高齢者の孤独死をはじめとした危機的状況の未然防止や早期発見を図るだけではありません。対象者1人ひとりに手書きでの宛名書き、視覚に障害のある方への点字版チラシの作成、定期的な発行、タイムリーな身近な情報の周知等様々な工夫、さらには訪問者との人間関係の構築によって、高齢者が大将軍地域に親しみや温もりを感じ、孤立感・不安の解消につながる取り組みとなっています。



## 元町

#### 「誰もが気軽に集える居場所に」





元町会館は、毎週火曜日、心待ちにした地域の住民が続々と集まり賑わいます。1階はカフェでのおしゃべり、2階は映画をみたり、体操をしたり・・・世代も問わず、誰もが気軽に集える居場所として「火曜サロン」が開催されています。この取り組みは、誰もが安心して暮らせる元町を目指して発足した元町見守りボランティアのメンバーが中心となり、孤独・孤立をふせく。活動として始まりました。

楽しい時間を共に過ごす中で生まれる人と人とのつながり・・・これが地域全体へとひろがり、住民同士の見守りの輪がひろがっています。

#### 見守り

#### 「緊急情報キットで顔つながりを!」

待鳳学区では75歳以上のお一人暮らしの高齢者を対象に、災害・急病等の緊急時に必要な情報(医療・介護など)を書き込んだ「緊急情報シート」と災害時の安否確認に用いる「黄色旗」を冷蔵庫の中に保管できる「緊急情報キット」を各種団体で連携しながら、一軒一軒手渡しで配布されています。

この取り組みにより、緊急時の迅速な対応につながるのはもちろん、平時の顔つながりが生まれることが、くらしの安心へとつながっています。





緊急情報キット

~身近な地域での「見守り活動」「居場所づくり」「相談活動」がひろがってきています~

#### 北区内の福祉施設の立場から

(高齡者福祉施設 紫野)

# 設)を対象に、 北区内福祉

小台

雅敏

Æ

共有し合いました。 交流会も開催し、現状を ア受入に関してアンケー 、ボランティア担当者調査を実施。またその 一受入れのメリッ 施設(70 ボランティ

用者の余暇の充実に デメリット

#### きにくい」「継続性がな い」等の課題も明らかと ながる」といった効果 ながる」「見守り体制が ある一方、「連絡がつ 化できる」「人材育成に

# 学生の立場から

(京都市北青少年活動センター「地域活性ボランティア」メンバーの学生)

るので、

社会に飛び出す準

世代の人との交流がもて

Guest Speakerís

comment

7/理解、

になりました。また幅広い や意見が伝えられるよう 考えられたり、自分の考え た。そこから、物事を広く

る喜びを感じた瞬間でし たことが地域に役立ってい

その一言が、自分のしてい

た「ありがとうね」・・・ 地域の大人から言われ

動をしていた時

変わる自分

1. 自分が加わる活動の

目標の理解

新たな

知ってもらい、専門性をして、福祉現場の現状を

ボランティア活動を通

材育成が出来ればと考え 活かしながら、将来の人

氏

信吾

やる気と課題発見

「反応」「振り返り」があれば、 常に目的意識をもてるし、 やる気がでます

工夫や、

活動後には振り返りを行い

側)の事情を理解してもらうための理解することと、学生に地域(受入

Æ

細田

は必要ですね。

れらのことは、

学生に限らず活動

トになると思います。

担い手を増やしていくためのポ

るべく反映させる柔軟さも受入側に とですね。そして、学生の意見をな 雰囲気づくりをすることも大事なこ その際には学生が意見を出しやすい 事前の地域の交流と 個々の目的共有

活動中の周囲の反応

comment



問題意識を引き出してよく 学生一人ひとりの個受けました。 学生パワー 一夫をお聞きし みなさまから 発揮のため 感銘 性  $\sigma$ 

社会福祉法人 地域福祉推進室

京都市社会福祉協議会 福祉ボランティア支援部

寺田 玲 部長 氏

#### 交流会 開催しています!

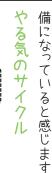


北区社協では、昨年度より北区内4大学(大谷大学、京都産業大学、 佛教大学、立命館大学)のボランティア関係部署や北青少年活動セン -、行政とともに、次世代を担う若者の意欲的な想い・カを発揮でき る環境づくりについて、話し合いの場(交流会)を設けています。

ならないと考えます。 也或ま、タニートでなければ)の環境づくりでなければ 学生諸君の学業や

取り組む地域福祉ボランティア活性化のプロジェクトです。 として結実しました。その矢先、北区社会福祉協議会さんから、うれしい提案として結実しました。その矢先、北区社会福祉協議会さんから、うれしい提案として結実しました。その矢先、北区社会福祉協議会さんから、うれしい提案として結実しました。その矢先、北区社会福祉協議会さんから、うれしい提案として結実しました。その矢先、北区社会福祉協議会さんから、うれしい提案として結実した。その矢先、北区社会福祉協議会さんから、うれしい提案として結実が自信を持って社会に出て行く手助けがでまった。 オークラブ活動を後押しできないか?地域は、学生 包括連携協定が土台をしっかりと支え、中心に学生諸君に 私共も総力で取り組みますので、 たします 大きなボランティアの輪を描きたいと思い 地域活動の皆様や福祉関係団体の皆様と

北区長 大森 憲 氏



coordinator



00さん」として・ 学生さん」じゃなく

# 学生パワーの活かせる 福祉のまちづくり

去る12月8日に大谷大学において、標記シンポジ ウムを開催しました。

当日は、地域の福祉関係団体や関係機関、一般の 参加者など約200名が参加。

学生を送り出す側の大学、受入れる側の地域や福 祉施設から現状や課題、展望についての報告、また 実際に頑張って活動している学生の想いを共有する 機会となりました。

#### 学生のボランティアに関わる大学の立場から

(立命館大学サービスラーニングセンター)

サ生と関わるにあ かっては一人ひとりと でって頂きたいです。 でって頂きたいです。 そこではじめて学生の そこではじめて学生の かと思いま

具体的には、
学べないことを学んで
動を通じて、大学では
動を通じて、大学では いたいと考えています。の基礎力を高めてもらといった社会人として ③チームで働く力 ②考え抜くカ ①前に踏み出す力



政夫 小林 氏



康浩

#### 北区内で学生を受け入れている地域から

(大宮社会福祉協議会)

か考えると実施の必要地域実態に合うかどういし嬉しく思う反面、事業提案について有難事業提案について有難 ていきたいと考えていていける環境をつくっら、取り組みをすすめ 想いを共有し合いなが、今後は、もっと互いの あるのも事実です。 性があるか悩むことが と対話を。

視点、発想が取り組みレッシュな感性や異なる大宮では、学生のフ



#### 「大学との協働によるまちづくり」

を充実させてくれてい

(紫野社会福祉協議会 会長代理 紫野カルチャー亭運営協議会)

実践報告

智規 石川

の繋がりや支え合いをも、学生を含め、地域で生もいます。これからと思ってくれている学 域を愛し第二の故郷だ学生の中には、紫野地関わってくれている 居場所」と心から実感で域を愛し、「ここが私の 大事に、自分たちの地 きるような取り組みを

一要素。ただ、活動を共の担い手が加わる中ので学生は、色々な年代いと考えます。あくま 性につながる訳ではないってすぐに地域の活学生が入ったからと にする中で、学生にし いと考えます。 のスパイス的役割をない発想で、たくさ

たっては、身近な地域で

すなど、地域のは

の状況や活動のよう

貴重なご意見を

いただくことができま

懇談会や、関係機関の

と考え、学区社協との 福祉活動を大切にした

ネットワ

ク会議などで

います。 定作 9 平成二十五 第三期計画の策定にあ 域福祉活動計画」の策 今年度は一年かけ 業を行いました。 トする「第三期北 年度よりス X

進するための行動計画ちづくりを住民主体で推り込社協は、福祉のま 画」に基づいて活動して「北区地域福祉活動計

≪基本目標≫

きたいと考えています地域福祉活動を行って

、と考えています。

しな

がら、

より充実した

『区民一人ひとりが主人公となって、参加と交流ですすめる福祉のまちづくり』

施計画を掲げています。活性化のための8つの中

学区社協や区社協活動

くり」を基本目標とし、

#### ≪基本計画≫と≪実施計画≫

- 1 学区社協活動の強化
- (1)各学区の状況に対応した、身近な地域での絆づくりの推進
- (2)次期地域福祉活動計画に向けた各学区社協の重点目標づくり
- 2 区社協活動の強化
- (1)地域のさまざまな生活課題を解決するためのコミュニティソーシャルワーク『カ』の整備・強化

です

すめる福祉のまち

公となって、参加と交流

区民一人ひとりが主人

いたご意見をもとに、新しい計画は、いた

- (2)社協が行うセーフティネット(生活支援機能)の取り組みの強化
- (3) 多様なボランティア・市民活動との連携の強化

企業など北区全体で連携行政・関係機関・大学・協で共有しながら、また、この計画を、区・学区社

- (4)大学・企業との連携
- (5)福祉への理解をすすめるための、学習の機会や体験の場の充実
- (6)災害に強い福祉のまちづくりの推進



支援日を心待ちにしてくださっている 利用者さんもおられ、訪問すると いろいろおしゃべりしてくださいます。 最初の頃は「私にできるかな」と思いましたが、 今は日々の生活がとても充実したものになり、 嬉しく思っています。 (生活支援員歴3年·Aさん)

利用者さんと信頼関係が築けていると感じた時や、利用 者さんに寄り添うことで 在宅生活を支えていると実感できた時、 また利用者さんが安堵の表情で 「ありがとう」と言われた時、 生活支援員をしていて良かったなと思います。 (生活支援員歴4年·Bさん)

い合わせください

酺

味·

関心のある方は、

下記ま

を支援する「生活支援員」を随時募集して北区社協では、この事業の利用者の方 常的な金銭管理、 事地的断 ▼業です。福祉サービスカヨ目至ケッセ域で安心して暮らしていただくための旳に障がいのある方など)に、住み慣れた断するのが不安な方(高齢の方、精神や知断するのが不安な方(高齢の方、精神や知 |便物管理などを行

# 日常生活自立支援宣

#### 京都市北区社会福祉協議会 北区ボランティアセンタ

〒603-8143

京都市北区小山上総町3

TEL: 075-441-1900 FAX: 075-441-8941

E-mail: info@kitaku-syakyo-kyoto.jp

ココロをつなぐ。まちが育つ。



プ/存知です